

手術器具を介したCJD二次感染予防リスク者のフォロー

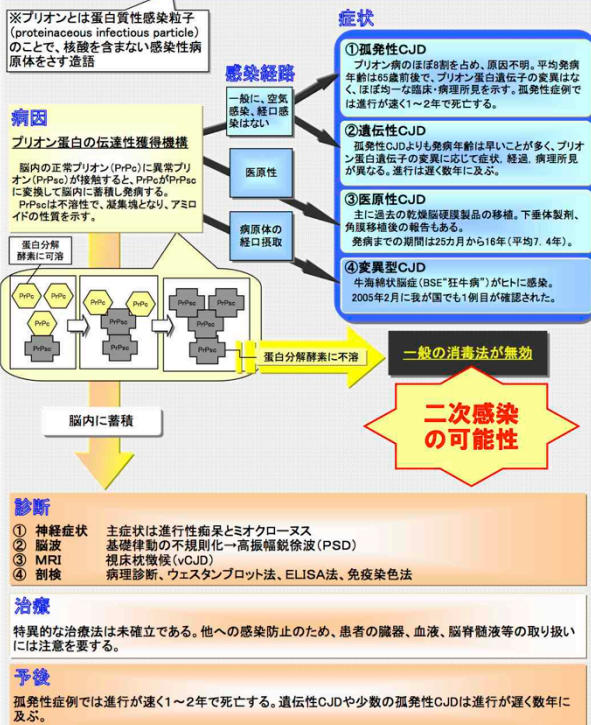
研究分担者：東京大学脳神経外科 齊藤延人

説明書類の整備

CJDについて

クロイツフェルト・ヤコブ病(Creutzfeldt-Jakob disease, CJD)とは・・・

- 100万人に一人の割合で孤発性又は家族性に生じ、脳組織の海綿(スポンジ)状変性を特徴とする疾患。
- 異常構造を有する異常プリオン蛋白が中枢神経系に蓄積し、不可逆的な致死性神経障害を生ずる。
- 現在では成因から、プリオン(※)病、また病理から伝達性海綿状脳症(transmissible spongiform encephalopathy, TSE)として、哺乳類の神経疾患群にひとくりにされている。牛海綿状脳症(bovine spongiform encephalopathy)がBSE。



インシデント事例フォロー状況

事例	CJD診断時期	告知対象者
1	平成16年6月	11名
2	平成16年8月	10名
3	平成17年10月	12名
4	平成18年10月	7名
5	平成18年9月	0名
6	平成13年6月	2名
7	平成15年3月	22名
8	平成18年3月	21名
9	平成20年1月	5名
10	平成21年7月	50
11	平成23年9月(H24新規)	60名
12	平成24年2月(H24新規)	58名
13	平成24年5月(H24新規)	5名

解説

1. インシデント発生時の説明書類、フォローアップのための書類を整備した。
2. 過去の事案4機関の現地調査を行い結果を集計した。
3. 新規インシデント可能性事案のうち4件を現地調査の対象とし、この内3件はインシデント事例となり、フォローアップの依頼を行った。
4. 日本脳神経外科学会で、手術器具の洗浄・滅菌方法の啓発を行った。